

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171600236		
法人名	医療法人社団 日翔会		
事業所名	グループホームいちよの木		
所在地	鳥取県日野郡日野町根雨899-1		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/3171/index.php?act=on_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;Ji_gvsvocd=3171600236-00&amp;PrefCd=31&amp;Ver_si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/3171/index.php?act=on_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;Ji_gvsvocd=3171600236-00&amp;PrefCd=31&amp;Ver_si_onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	平成30年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れたこの地域で今までの生活を大切に、寄り添いながらお客様の生活リズムにあわせ、安心・安全に生き生きと生活して頂ける場の提供を心掛けています。日々の中で希望を聞き、年間行事(季節行事)やクラブ活動(料理クラブ・習字クラブ、生け花クラブ)など取り入れながら、継続的に楽しみがもてるよう開催しています。今年度より、新たな取り組みとして月1回授業の一環で地元の高校生との関わりが増え、交流を深めることが出来ています。、地域と共に支え、馴染みの関係作りが出来よう心がけ、地域行事に参加したり近隣のボランティアの方に来訪して頂いたりしています。ひとり一人のその方の持っている能力に合わせたケアの実践をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「住み慣れた地域の中での安心した暮らし、関係の継続を大切にしていくこと」のホーム理念のもと支援が行なわれています。  
地域の祭りやとんどさんに参加され交流が深まっています。また、同法人隣接の老人保健施設や特別養護老人施設と行事等で交流があり楽しまれています。  
食事は手作りをされ季節の食材を使われ家庭的な雰囲気です。食事を楽しまれています。  
職員は笑顔があり、利用者に寄り添いゆったりとした生活をして頂けるように支援されており、家族からの信頼も高いです。若い職員も多いですが、認知症やケアの理解をされ、心のこもった支援が行なわれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中での安心して暮らし、関係の継続を大事にしていることを、理念にし、日々実践に繋げている。	住み慣れた地域の中での安心して暮らし、関係の継続を大事にしていることをホーム理念に掲げ、地域行事への参加や地域の方との交流等、関係継続が行なわれています。職員はホーム理念を共有されケアを実践されています。年2回法人の「こやまケア」行動指針、「禁句集」の振り返りも行われます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、いちょうの木行事に参加頂き、交流を図っている。いちょうの木にきて頂ける環境づくりと図書館に行き本を借りたり図書館より持ってきて頂いている。今年度より、新たな取り組みとして月1回授業の一環で地元の高校生との関わりが増え、交流を深めることが出来ている。	地域の祭りやとんどさんに出かけたり、ホームの行事に家族、地域の方の参加があり交流を図られています。町の図書館に行き本を借りられたり、届けて頂かれ読書の機会を作り楽しみとなっています。今年度より新たな取り組みとして月1回授業の一環として地元の高校生との交流も行なわれるようになりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の参加行事では、認知症の理解が頂けるように説明をしている。日翔会総合福祉センター祭りにはいちょうの木も合同参加して、来られている人達と交流をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設内外の活動状況を報告し、その内容について出席者の方々に評価してもらい、ご意見や提案、助言を頂き、施設内のサービスの向上に取り組んでいる。また運営推進会議を行事の日にに行い一緒に参加してもらっている。	2ヶ月に1回運営推進会議が開催されています。状況報告、活動報告等の状況を報告され出席者の方々に評価を頂き意見、提案、助言をサービスの向上に取り組んでおられます。運営推進会議を行事の日に開催され利用者の様子を見て頂く工夫もされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に役場福祉保険課の職員の方が参加して下さっており、事業所のケアサービス等は連携を取っている	運営推進会議に役場福祉保険課の職員に参加頂き意見やアドバイスを頂かれています。役場と事業所はケアサービス等の連携は図られています。ノロウイルス、インフルエンザ等感染症の対応等連絡も頂かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の勉強会を行っており周知している。マニュアルを見やすい場所に置いている。身体拘束はしない取り組みをしている	身体拘束廃止委員会を設置されホームで3ヶ月に1回勉強会を開催され身体拘束をしない取り組みが行われており、職員にも周知が図られています。マニュアルも誰でも見やすい場所に設置されています。「スピーチロック」にならない声掛けや言葉遣いに注意しておられます。禁句集は職員トイレにも貼ってあり職員は振り返りを行いケアを実践されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	お客様が外泊・外出時や施設内で虐待されることがないように注意を払い、防止に努めている。法人統一研修として、法人で取組を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県からのパンフレットの地域福祉権利擁護事業や、成年後見制度について学んでいる。職員へも周知出来るよう、資料の掲示と配布を行なった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、お客様や、ご家族様に権利や義務についての説明を行なっている。また、お客様や、ご家族様の不安や疑問点については話し合いの場を設け理解、納得いただけるよう十分に説明を行なっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、意見・苦情を表示出来る場を設け、外部の方やご家族等に回答を行なえるようにしている。年1回お客様、ご家族様へのアンケートを実施し改善を行い回答している。アンケート回収後は施設玄関に掲示し閲覧できるようにしている	玄関に意見箱が設置され家族や外部の方に意見、要望が言えるようにされています。家族面会時に意見・要望を伺われています。遠方の家族にはプラン変更時や帰省の面会時に意見・要望を伺われています。また、電話にて家族に様子等説明されています。年1回アンケート調査を実施され、結果や検討・改善の回答はホーム玄関に掲示し閲覧できるようにされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回の職員会議やユニットミーティング、面接等にて職員の意見や提案を聞き、業務改善等に繋げている。	月1回の職員会議やユニットミーティングでケアや意見、要望が話し合われています。個人面接は年2回行われ、目標や意見、提案を聞き業務改善に繋がられています。月1回管理者は法人全体会議に出席され提案等述べる機会も設けられています。相互研修に参加され参考にされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が、個人目標計画・教育訓練計画を立て、目標が達成できるようにサポートしている。個々の努力に対しては上司がきちんと評価し、やりがいを持って仕事ができるよう心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務確認表やケアチェック表等活用して職員の力量を把握し、研修での技術や知識を学ぶ機会を設けている。法人全体の研修にもなるべく多くの職員が受講できるようにしている。資格取得に向けても、法人全体でバックアップしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の相互研修へ参加し交流を図り、自施設以外の職員の意見や経験を聞きケアに活かしている。また、同じ法人内で、相互研修をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入所前には、管理者と職員にて必ず面談に伺い、お客様の今の思いを聞き、置かれている心身の状況を把握するようよう努めている。また、出来る限り施設見学等もして頂き、施設の雰囲気を感じて頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所前には、必ず面談に伺い、これまでの経緯を聞くと共に、困っている事や、不安な事も十分に聞き、今後のサービスについて一緒に話し合っている。待機期間には、定期的に連絡を取り現状を把握し、いつでも相談できる様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に今の状況をきちんと把握し、現状で必要なサービスが何かを見極め、当施設で対応出来ない場合には、法人内外の各事業所のケアマネージャーや支援相談員と連携しながら、早急な対応が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、お客様と馴染みの関係を作り、一緒に過ごすことにより、日々の生活を共に楽しんでいる。会話の中から、不満や希望、楽しみ昔の話を聞き、ケアに繋げている。季節行事や、日々の生活の場面において教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話・お便りにてお客様の日々の生活の様子や、職員・ご家族様のお互いの気づきや思いを伝え、ご家族様と情報を共有し、喜怒哀楽を共に出来る関係を築いている。外泊外出の支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方が来られ交流をして頂いている。誕生日の企画では、希望を取り入れその人だけの特別な機会を設けている。又住んでいた地域を通り馴染みの風景を覗いて頂いたりしている。	近所の方が来られたり、日曜日に家族の面会が多くあり交流の継続をされています。誕生日の企画には本人の希望を取り入れたお祝いが行なわれ、特別な日となるようにされています。また、住んでいた地域を車で通り馴染みの風景や自宅を見て関係が途切れないようにされています。地元の美容室に通い、馴染みの関係の継続が図られている方もおられます。併設のデイサービス利用の友人に面会に行かれ、関係継続が続いている方もおられます。	回想法の一環として、馴染みの人や場所について、利用者の方にお話ししてもらい聞いてあげる事も良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士協力し、洗濯物をたたまれたり茶碗拭きをされたり、また、お客様同士の、トラブルがないように職員が間に入り円滑な関係が築けるよう支援している。孤立しがちなお客様には職員が寄り添うように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に行かれても家族や親せきの方が様子をしらせてくださる。地域の中で、ご家族様に会うことがあり様子を聞いたりできる関係が保てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行い希望要望を聞き実現できるよう検討を行ない支援している。お客様の思いや希望・意向を元に、企画をたて実現することも行っている。ご家族様からも聞いたりしている	アセスメントやプラン更新時に希望・意向を伺い、検討されプランに繋げ支援されます。希望・意向より食事の希望や外出、ドライブ等企画され支援されています。困難な方は家族より意向・希望を伺い検討されます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで得た情報を元に、日々の生活の中やご家族様や知人の面会時に話しを聞き、どのような生活をされていたのか把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方心身の状態の変化等は、記録と口頭にて申し送り把握している。お客様の要望は対応出きるよう申し送りを行い、職員で検討企画に入れたりする。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様が自分らしく暮らせるよう、関係者の意見を含めて課題となる事をカンファレンスで話し合い介護計画作成に活かしている。モニタリングを行い、3ヶ月に1回ご家族様の承認を得ている。	本人、家族、医療関係者、職員でカンファレンスを行い、日頃の様子から自分らしく暮らせるよう課題を検討し介護計画を作成されています。モニタリング3ヶ月に1回、見直し、評価は3ヶ月に1回行われます。給へ棟あれば随時見直しが行なわれています。介護計画は家族に説明され承認を板だかれています。	日常生活動作のアセスメント時に、認知症で出来なくなっている事なのか、加齢に伴い出来なくなっている事なのか注意されプランに繋げていかれると良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康管理表、生活記録等に記入し担当者会議や、介護計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前利用していたデイサービス、老健に遊びに行かれたり、また奥様、夫が入所されているため会いに行かれたり、その時々で臨機応変に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加出来るようにしている。また図書館等に出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門外来受診をしている。また訪問診察も行う。協力病院との関係作りが出来ている	利用者全員協力医療機関である日野病院をかかりつけ医とされています。内科については月1回往診が実施されています。同医療機関の整形、眼科、皮膚科等の受診は家族が同行されます。同行出来ない場合は職員が同行し受診後の報告をもらわれ家族に連絡をされています。歯科医は往診治療されます。協力医とホーム管理者は連携され支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の施設の看護師に相談している。又協力病院にも相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が生じた場合には、日頃の様子、及びサービス内容について情報提供し、安心して過ごせるよう支援している。また、入院中の面会も行い、家族様や、医療機関と情報交換を行い早期退院に向け支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在はターミナルは行っていない。入所時に説明をし、何かあれば協力病院に行くことを説明して承認を頂いている	入所時に利用者、家族に重度化や終末期に向けた方針の説明が行われています。状態により隣接の老健、特養への入所や医療が必要になれば協力病院へ入院の説明が行われ承認を頂いております。このためホームでは現在看取りは行われていません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修の実施と、消防署よりの、救命救急講習を実施している。隣接の施設全体で講習を行い職員全員が参加できるようにした		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。災害時の対応、備蓄、避難経路も確認する。緊急連絡網にも職員間で行う。地域の訓練にも参加した	年2回防災訓練が実施されています。災害時の対応、避難経路、備蓄準備の確認が行われています。職員緊急連絡網あり職員間で確認されています。地域の防災訓練には職員が参加されました。ホームすぐ近くに川があり、氾濫、浸水の恐れ心配されていましたが、工事等が行なわれ氾濫の危険性もなくなり、水害の心配のなくなり安心とのことでした。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた言葉掛け、対応を行なっている。また、禁句集を作成し、プライバシーを損なうような言葉掛けはしないようにしている。申し送りも、お客様に聞こえない場所で行い、プライバシーの保護に努めている。	一人ひとりに合わせた言葉掛けで対応をされています。「こやまケア」行動指針、「禁句集」がありプライバシーを損ねないケアが実践されています。申し送りは利用者に聞こえない場所で行われプライバシーの保護にも努めておられます。法人の接遇研修に参加され伝達講習も行ない、職員に周知が図られています。家族アンケート調査を実施され検討後改善の回答は施設玄関に掲示し閲覧できるようにされています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の言われていることに耳を傾け聞き叶えている。入浴の準備の際、服を選んで頂く等、個々に合った支援を行っている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、本人のペースを保ちながら日々生活して頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には、お客様に洋服を選んで頂いて、本人が気に入ったものを着用されている。毎朝身だしなみには気を付けている	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニューを実施。茶碗拭き等手伝って頂く。顔馴染みに人との食事を楽しんで頂いている。希望する物を食べに行く企画をたて実施している。行事ではお好きな物を食べて頂けるようバイキング形式を取り入れている。	季節感のあるメニューの食事を提供されています。食事テーブルには顔馴染みの方と食事を楽しまれます。テーブル拭き、茶碗拭きや下膳を職員と一緒にされています。外食企画では米子の回転寿司に行かれ楽しまれました。行事食ではバイキング方式で好きな物を選んで食べて頂く機会も設けられています。食事は利用者と職員が一緒にテーブルで食事をされ、会話を楽しまれています。嗜好調査を行われ希望を聞かれ好きなものを食べる機会を設けられています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、把握を行なっている。一人ひとりの状態に合わせた食事の提供方法を考え工夫し、食事摂取量の確保が出来るよう支援している。また、水分量の少ないお客様には、飲み物の工夫をして摂取して頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアへの声掛け及び誘導を行ない、食堂洗面台にて歯磨きを行っている。また、一人ひとりの口腔の状態に合わせた、歯ブラシの検討を行ない使用している。また、曜日を決め週3回、義歯をポリドントにて洗浄を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成して、排泄パターンをつかみ、定期的にトイレ誘導を行っている。	チェック表を作成され排泄パターンを把握し定期的なトイレ誘導を行いトイレで排泄の支援が行われています。トイレが居室にあるので夜間でも安全に排泄が行えます。夜間安全の為ポータブルトイレを使用される方もおられます。オムツ対応の方は定期的なオムツ交換が行われ清潔が保たれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、ココア、バナナ、麦ご飯等提供し、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様の要望を聞いて入浴して頂いている。	利用者の希望を聞きながら週2回午前、午後入浴支援が行われています。シャワー浴や2人介助で入浴も行われ利用者にあった入浴が行われています。体調により時間の変更等も行われます。拒否の方はおられないが拒否がある時は声掛けやタイミングを図り入浴して頂かれます。利用者の希望により同性介助の対応も行われます。希望により足浴も行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の状態や、疲れ具合によって、各居室や、お客様の安らぐ場所にて休息できるよう支援している。寝付けなない時には、職員が話をしたり、飲み物を用意する等の配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお客様の薬の目的・副作用・用法・用量について理解している。また、薬が変更になった場合は、申し送りしている。もし何か変りがある時には主治医に連絡し指示を仰いでいる。薬のセット配薬・服薬時は、手順を決め、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴をいかし、また日課・役割となるよう支援している。また、個別に外出を行ったり、畑で収穫した芋を使い、クラブ活動も行なっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前利用していたデイサービス、老健に遊びに行かれたり、また奥様、夫が入所されているため会いに行かれたり、ご家族様と一緒に面会に行かれている。玄関先で外気浴をされている。春、秋には花見や紅葉を見に行ったり、希望する物を食べに行く企画をたて実施している。	入所前に利用されていたデイサービスの運動会やレクリエーションに参加や顔馴染みに合いに行かれます。小学校の稲刈りに参加され稲を藁で結ぶお手伝いをされました。ホーム入所の奥様は夫が入所されている施設に面会に行かれたり、家族と一緒に面会に行かれます。ホーム周りの散歩や玄関先で外気浴をされる方もおられます。春や秋には行事で花見や紅葉見物も行われます。外出企画では回転寿司に行かれ寿司を食べて喜ばれています。面会や行事・食事外出など希望に沿った支援が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の預かりはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば、すぐに電話をかけることができるように対応している。また、家族や大切な方々から本人様宛に電話が掛かって来る事もあり、きちんと取次ぎを行なっている。手紙も来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気(生活感)が出せるよう、お客様が好まれるような花を飾ったり、季節感の分かる飾りつけを行い工夫している。また、食堂に居れば、家事の音、ご飯の炊ける匂いがし、時には音楽等を流している。好きな時間に自由にテレビも視聴できる。	ホールにクリスマスツリーがあり廊下には塗り絵やクリスマスの飾りつけや正月の飾りがあり季節を感じられました。共有空間は温度管理や明るさも配慮され過ごしやすい工夫をされていました。ホールでは好きな時簡にテレビを見ることができず。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室を昼寝場所として、休んで頂いたり、ユニットには石庭があり長いすくつろいで頂ける様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは、今まで使用されていた馴染みの生活用品を持ち込まれている。また、ご家族様の面会時や、外泊時に、お客様の好みや馴染みの物を継続的に持ち込み、居心地の良いその人らしい居室となっている	ベッド、写真、テレビ等、馴染みの物を持ち込まれそれぞれ使いやすく置かれています。家族の面会時や外出時に好みの物や馴染みの物を持ち込まれ心地良く過ごせる部屋となっています。状態に合わせベッドや車椅子をレンタルされ生活しやすく使用されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできることは見守り支援している。張り紙や目印の工夫を行い自立支援を促している。状態が変わり混乱や失敗が生じた場合には不安材料を取り除き力を発揮できる様に支援している。		